特別支援学校における知的障害のある生徒に対する美術教育の充実に関する研究
－深い学びにつなげる「振り返りシート」の作成・活用を通して－

山口県立山口総合支援学校　教諭　西村　江美

1　研究の意図

(1) 研究の背景

中央教育審議会答申では、質の高い深い学びをめざすためには「子供たちの思考を深めるために発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、学びに必要な指導の在り方を追求し、必要な学習環境を積極的に設定していくことが求められる」＊[1]としている。

(2) 研究テーマ設定の理由

原籍校には、知的障害のほか、肢体不自由やＡＳＤの特性を有する児童生徒が多く在籍しており、その実態は多様である。知的障害の程度も異なり個人差が大きいため、美術科授業の表現及び鑑賞の活動において、深い学びにつなげにくいという課題がある。

そこで、本研究では学習指導要領に示された美術科の段階を基にした実態把握を行い、段階に応じた目標設定と指導内容の選定を行うことで、深い学びの鍵となる造形的な見方・考え方を働かせることができると考えた。

(3) 研究の仮説

知的障害のある中学部生徒に対する美術科授業において、それぞれの段階とその目標に応じた「振り返りシート」を作成し、造形の要素に注目できる視点の提示及び確認ができるようにすることで、造形的な見方・考え方を働かせながら学びを深めることができる。

2　研究の内容

(1) 本研究における「深い学び」について

本研究では、「深い学び」を「振り返りシート」に提示された造形的な視点を手掛かりに造形的な見方・考え方を働かせ、表したいイメージをめざして知識や技能を活用しながら、思考・判断し表現することに向かう主体的な子どもの姿と定義する（図１）。

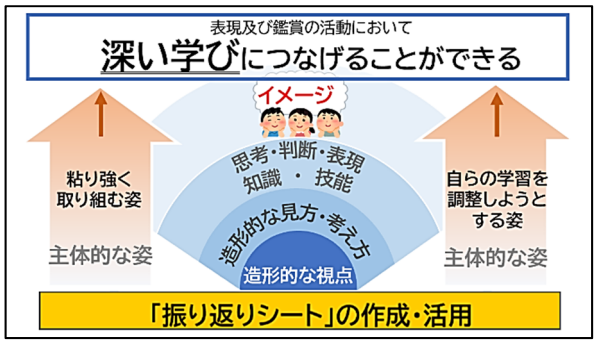

図１　「振り返りシート」と深い学びのイメージ図

(2)「振り返りシート」作成・活用の流れ

美術科の段階を基にした実態把握を行い、段階に応じた目標と指導内容を選定した上で「振り返りシート（生徒用）」を作成・活用した。また、担当する生徒の目標設定と指導内容の妥当性及び自身の指導・支援の妥当性についての「振り返りシート（教員用）」も作成・活用した。授業実践後、生徒の自己評価と教員による評価を基に、目標設定や指導内容の妥当性について適宜検討し、改善を行った（図２）。

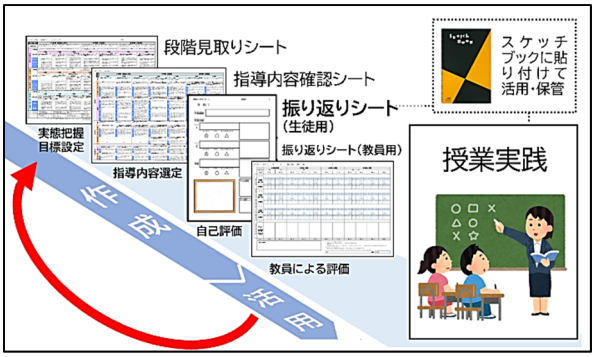

図２　「振り返りシート」作成・活用の流れ

(3) 授業実践

６月の授業実践では題材「○△□の世界（平面／６時間）」とし、基本的な形の構成による表現に取り組んだ。10月の授業実践では、そこに「光」という造形的な視点を加え、題材「光をあつめて（立体／６時間）」に取り組んだ。授業の構成については、活動内容と振り返る内容を一致させて自己評価ができることをねらい、活動ごとに目標の確認と振り返りの場面を設定した。個々で記入した内容は、次時の導入で全体に提示し、共有化と価値付けを図った（**図３**）。

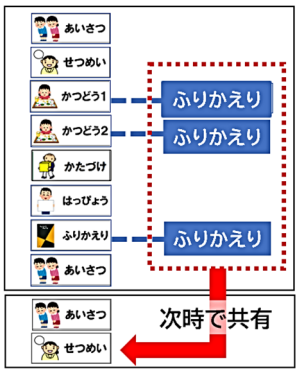

図３　授業の構成

(4) 授業実践の結果と考察

「振り返りシート」の活用が、深い学びに必要な主体的な姿にどのようにつながったのか、記入内容を基に、発表場面での発言及び学習過程での行動を併せて分析・検証した。

記入総文字数は、６月授業実践の1850字から10月では2153字（伸び率16.4%）となり、「振り返りシート」の活用度の高まりが確認できた。

各授業実践の１回目と２～６回目の記入文字数（平均）を比較すると、いずれも後者の方が多く、発表場面での発語数も同様の結果が見られた（**図４**）。これについては、単なる文字数の増加によるものではなく、造形的な見方・考え方を働かせた記入内容の質的向上が要因と考えられた。

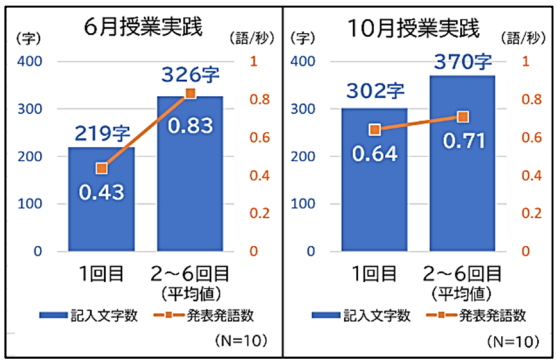

図４　各授業実践における記入文字数・発語数

記入内容を分析すると、試行錯誤する姿や自発的に行動する姿等の主体的な姿との関連を見取ることができた。このことから、造形的な見方・考え方を働かせた学びが視覚化され、明確に確認できたことで、表したいイメージを具体的に考えることができたり、材料や用具の使い方等の表し方を考えることができたりという、深い学びに必要な主体的な姿につながったと考えられた。

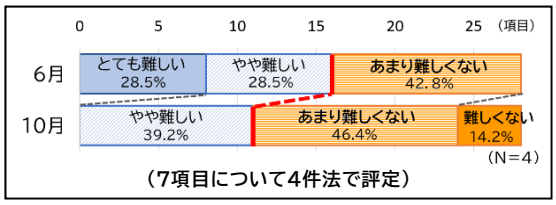

図５　美術科授業における指導・支援の困難さ

教員を対象にしたアンケートでは、美術科授業における指導・支援について、６月授業実践では「とても難しい」が28.5%見られたが10月では消失したことから、「振り返りシート」の活用が指導・支援の困難さの軽減につながったと考えられる（**図５**）。また、「今まで気付かなかった生徒の好みや思いを知ることができ支援に役立った」等の記入からも、「振り返シート」が指導・支援に役立つツールとしても有効であったと考えられた。

３　研究のまとめと今後の課題

段階に応じた「振り返りシート」を作成・活用したことで、生徒それぞれに学びが深まっていく姿が見られた。他者と関わり合いながら、互いに学びの過程を共有し価値付けていくことが、美術教育の充実であると考える。今後は、振り返り場面におけるタブレット型端末の効果的な活用方法や、重度重複障害のある生徒の振り返り場面や内容の精選について検討していきたい。

【引用文献】
＊１　中央教育審議会,「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」, 2016, p. 52